

『竹馬』

育てたい力

- ・ちょっと難しそうなことやできるようになりたいことなどに、(やってみよう)という気持ちをもって取り組む。
- ・目的をもって繰り返し取り組んでみようとする。
- ・バランスを取りながら手足を動かして心地よさを感じる。

経験させたい内容

- ・一人で乗れた嬉しさや達成感を感じ、自信をもつ。
- ・頑張っている友達を励ます。
- ・体の様々な機能や感覚を使って運動遊びを行う。

5歳児9月 事例

【クラスの実態】

男児14名、女児12名、計26名のクラス。雲梯やのぼり棒などの固定遊具やリレー遊び、中あてなどの運動遊びを、友達と一緒に始め、行う様子が見られる。反面、少し難しかったり怖かったりすると、行わずにいたり、すぐやめてしまったりする子もいる。夏のプール遊びで水にもぐったり浮いたりできるようになり、今まで行なわずにいた運動遊びにも、(やってみよう)と取り組んでみる子が増えてきた。

【活動の流れ】

- ・5月末に、親子で竹馬作りを行った。その直後、自分の竹馬に乗ってみる様子もあったが、足の指の皮がむけ痛いことや、すぐには乗れるようにならないことから、やめてしまう子もいた。
- ・9月上旬より、一斉活動において、毎日少しずつ竹馬や逆上がりなど、できるようになりたいこと、上手になりたいことに、クラスみんなで取り組む『チャレンジタイム』を設ける。また、10月中旬の運動会で『チャレンジタイム』に行ってきたことを見せることを伝えておいた。自分なりの目標を決め、やってみる様子が見られた。また、一斉活動以外の遊びの中でも、竹馬や逆上がり、なわとびなど、自分のできるようになりたいことを、やってみる子も出てきた。

【指導や環境の工夫】

- ・幼児が(やってみよう)という気持ちをもって取り組み、取り組みを続けられるような教員の認めや励まし、支えが必要である。また、励まし合えるよう、クラスみんなで行う機会を設けたり、お互いを認め合う雰囲気を作ったりする。
- ・繰り返し行う大切さを知らせたり、繰り返し行ったことで目標が達成したことや目標が達成した嬉しさを感じさせたりしていく。

【エピソード】『一人でやってみる!』

【記録前の様子】 A児は、一週間前より竹馬に挑戦している。今日も、『チャレンジタイム』(→竹馬や逆上がりなど、自分のできるようになりたいこと、上手になりたいことをクラス全員で行う時間)に、他の子たちと、一緒に準備をして、竹馬を行い始めた。周りには、自分で乗れる子が少しずつ増えてきたが、まだ、乗れずにいる子もいる。A児も、高さやバランス、重心の違いから思うように乗れずにいた。



『一人でやってみる!』 教員は、A児の竹馬を支えながら「少し前に倒して乗るんだよ」「前を向いていこう」など、本児にコツを伝える。しばらく行ううちに、A児の竹馬に手を添えるだけでも進めるようになってきたので、「さっきまでは、先生が力を入れてA君の竹馬を支えていないと、A君は倒れちゃっていたんだよ。でも、今は、力を入れないで、竹馬に先生の手をくっつけているだけなのに、A君は倒れないで進めるね」と声をかける。すると、「先生、手をはなしていいよ。僕一人でやってみる」と言う。A児の言葉を聞いて「A君すごいね、やってみるんだ」「がんばって!」と周りの子から声がかかる。・・・やってみると、一人で3歩進めた。Aは「できた!」とうれしそうに笑う。教員が「Aくん、すごいね!一人で歩けたね」と声をかけると、A児は「もう一回やってみよう」と繰り返し行い、この日は、最高6歩、歩けた。「またお弁当の後、竹馬をやってもいい?」と言ったので、教員は、「うん!いいよ〜。」と答えた。

【その後】 『チャレンジタイム』以外の遊びや降園後の時間にも、竹馬をやってみる様子が見られた。数日後には、30歩まで歩けるようになり「先生、見ていて。」と何度も見せに来たり、友達にも見せたりしていた。

予想される活動例

- ・なわとび ・跳び箱遊び ・逆上がり

【小学校への学び】

- ・興味をもって繰り返し取り組むことで自分でもできるという自信につながり様々な活動に、意欲的に取り組む気持ちや姿につながっていく。